・碓氷川右岸エリア開発のリスク評価について

無所属
原田（はらだ）　大（だい）

詳しい内容はこちら

この開発は大規模プロジェクトであり、安中市民からみれば、自分たちが支払った税金による巨額の先行投資を伴います。このプロジェクトを進めるにあたり、リスクをどう評価しどのようなプロセスを経て進めてきているのか、確認しました。

3月12日に新駅構想の関連記事がネットニュースから配信されました。その記事に対する意見投稿は記事配信から4日間で41件ありましたが、賛成意見は1件のみで、ほかすべてが否定的な意見でした。市外の方の意見も一部入っているかもしれませんが、これも民意の一つと考えます。

私は、この大規模プロジェクトである碓氷川右岸エリア開発のリスク評価について、①「立地場所の地理的条件」（昭和10年の大水害の被害状況、エリアの大半が50㎝～3ｍの浸水想定区域に指定等）、②「立地適正化計画」（水害リスクを伴う地域に居住を誘導することの是非等）、③「商業地開発」（県マスタープランとの整合性、優先交渉権者のビジョン実現性等）、④「新駅構想」（本市が全額負担の新駅建設費用、乗降客数確保の根拠、新駅誘致失敗時のインパクト等）の4つの視点から質問しました。

・安中市水道事業ビジョン・経営戦略について
・個別避難計画について

水道事業を取り巻く状況を全国的に見ると、①高度経済成長期に整備された水道施設の老朽化が進行しており、対応が課題となっていること、②人口減少により給水量の増加が見込めない中で、財源確保には、水道料金の値上げが必要になると考えられること、③人口減少社会への適応のため、広域連携等による事業の実施が求められることが指摘されています。そこで、本市の「水道事業ビジョン・経営戦略」を基に、水道事業の現状と課題、今後の対応について聞きました。

災害時に自力で避難することが困難な高齢者や障害者等の避難行動要支援者に対する支援の実効性を高めるため、個別避難計画の作成が市町村の努力義務とされています。個別避難計画は、平時からある様々な見守り活動や人間関係により、既にあるセーフティーネットに、もう一つのセーフティーネットを加えるものです。そこで、個別避難計画作成への取り組みについて聞きました。

令和5年3月竣工の榎木配水池（五料地内）

清風クラブ
松本（まつもと）　次男（つぎお）

詳しい内容はこちら